かみのやま 歴史・文化財さんぽ

第１１号（平成３０年７月）

牧野久昌寺の 嘉暦三年三尊板碑

牧野の 文保二年天神板碑

ミドリ「駐車した奥に、すばらしいお庭と建物があるわ。」

ふみお「“洗心庵”というんだね。」

あゆむ「入ってみよう。」

文じい「まあ、待ちなさい。今日は、表の山門から入って、見せてもらうものがあるのじゃ。」

ミドリ「ちゃんとあいさつしなきゃね。」

あゆむ「あれだな。説明板が立っている。」

嘉暦三年
三尊板碑
（1328年）

ふみお「種子が三つあるのかな。字もところどころ読めそうな気もするが…。」

あゆむ「説明板を見ればわかるよ。」

ミドリ「“三尊”は、この前の板碑にあったわね。」

ふみお「キリーク（阿弥陀如来）、サ（観音菩薩）、サク（勢至菩薩）だったよね。」

文じい「よく覚えておったな。それで、次のように刻まれておるようじゃ。」

文じい「妙果は、妙泉とも読み取れ、その人の霊を供養するために建てた卒塔婆ということじゃ。」

ミドリ「ここは、どういう寺なのかしら？」

文じい「ふむ。久昌寺は、かつて長福寺と称して、如来寺の方にあったらしいの。」

ふみお「やっぱり如来寺と呼ばれたあの辺りはすごいところだったんだ。」

文じい「そうじゃのう。あのところは寺町とも呼ばれていたらしいからの。でも、この辺りもすごい所なのじゃ。すぐ近くに今回見るもう一つの板碑がある。」

あゆむ「近くに？　よし、行ってみよう。」

ミドリ「あら、いろいろ並んでいるわ。」

ふみお「右端のものは、祠だね。左端に建てられてあるものは、よく見ると“天神宮と牧野の文保二年板碑”とある。記念碑かな。」

あゆむ「中の二つのどれかが文保二年の碑か。」

ミドリ「よく見ると、大きい方に種子らしいものが見えるわ。」

文じい「ほほう、3人ともよく見えるようになってきたの。その通りじゃ。」

ふみお「ミドリ、種子は何かな？」

ミドリ「うーん。これも3つあるみたいね。やはり阿弥陀三尊なのかしら？」

文じい「ふむ、確かに右は、観音菩薩のサ。左は、勢至菩薩のサクじゃが、上は、胎蔵界大日如来のアということじゃ。」

ふみお「あれ、胎蔵界大日というと、如来寺跡の板碑でアーンクというのじゃなかった？」

ミドリ「あ、そうだったよね。」

文じい「ほう、よく覚えておったの。実は“大日如来におすがりいたします”という真言ということばの中には、アがあるが、それで大日如来を表すことにもなるということじゃ。刻まれている字は、次のようじゃ。」

文保二年天神板碑
（1318年）

文じい「亡くなった母が極楽浄土に行って生まれ変われますようにと祈った卒塔婆じゃ。」

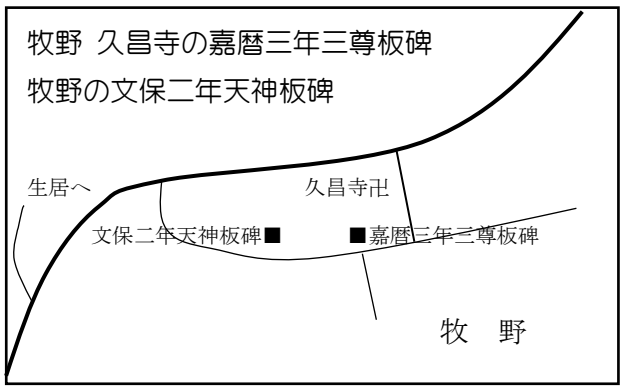
ふみお「“天神宮”というのは、この祠などと関係あるのかな。」

文じい「ふむ。ここは天神の森と称して、前は、笹やぶの中に、けやきや杉、栗などの大木がしげっていて、その中に天神社が祀られていたという。天神祠と卒塔婆と記念碑などを一緒に建てたんじゃな。」

ミドリ「この辺りもパワースポットなのね。」

文じい「そうじゃのう。このほかにも牧野には板碑や大切なものがさらにあるのじゃが、またの機会にしようか。」

あゆむ「よし、さあ洗心庵に入らせてもらおうよ。」



発行：　上山市教育委員会生涯学習課文化財・文化芸術係　　電話　023-672-1111（内線 314）